

# まちづくりの歩み

—— まちづくり計画 ——



平成 26 年 3 月  
上月地域づくり協議会

# 発刊にあたり

上月地域づくり協議会  
会長 垣谷 勉

この度、上月地域づくり協議会「まちづくりの歩み」の発刊にあたり、一言ご挨拶を申しあげます。

平成17年新町誕生後のまちづくりを行う為に、翌年18年4月に設立された町内13協議会の一つとして上月地域づくり協議会が発足いたしました。

当初は手探りで、担当の方の指導による役員構成から、各地域の自治会長さんに協力を得ながら組織作りを行い、みんなで参加できる祭り「上月城祭り」を開催して参りました。

発足3年目の平成21年夏、台風9号による大水害は、多くの人命と家屋をはじめとする大災害をもたらし、忘れる事の出来ない大きな傷跡を残しました。

しかしながら、近隣の市町を始め全国各地からいち早く駆けつけてくださった、延べ16,000人に及ぶボランティアの皆さんに、大きな勇気と希望を頂き感謝の念にたえません。

当時は、被害の多かった地域を中心に「ガンバロー上月」と「絆」を合言葉に「焼きそば、揚げタコ、フライドポテト」を作ってささやかな活動をしてまいりました。

平成22年の秋、昨年8月の大水害で一時中止となっていた「上月城祭り」を開催するにあたり、祭りに「甲冑武士」の衣装を倉吉市からお借りてきて、当時の役員三人で祭りに登場しました。

これを機会に、まちづくり文化部を中心に「手作り甲冑」の製作が始まり現在は7領（りょう）の甲冑で昨年より名称を変えた「上月城ふるさと祭り」に華を添えています。

近年の活動は、新春ウォーキングを始めグランドゴルフ大会や、3世代交流事業として夏休みラジオ体操会やクリスマス会、小学校のオープンスクールのクリスマスリース作りや、皆田和紙保存会の協力による「行燈づくり」又、各学期末の登校時の交通立ち番や、保育園の夕涼み会の参加や、ママプラザの子供達との交流も行っております。

最後に今後は、過疎高齢化や地域間格差の問題も考えられ、今年から発足した地域自治包括交付金制度の活用と人材育成に努力をして参りたいと考えています。

ここに、今日までに取り組みと今後の活動方針をお示しして上月地域づくり協議会の「まちづくりの歩み」に各位のご協力とご指導をお願いします。

平成26年3月

## はじめに

全国的に少子高齢化と人口減少が進み、生活を取り巻く社会環境は大きく変化し、地域間の格差がますます増大して、各地で自治会機能の維持が困難な集落や、今後近い将来集落そのものの消滅が危惧されております。

さらに我が町においても、平成21年の大水害が町の中心部をはじめ各地で住居、商店街に甚大な被害をもたらし、後継者不足や高齢化により住宅や店舗等の再建が進まず、人口減少に歯止めのきかない状況を起こしています。

## 上月地域の現状

上月地区は、19自治会で構成され高齢化率も町内と大差はないものの、中心部の自治会では約150世帯人口450人を有する自治会と、山間部の数世帯、構成人口10人以下の自治会が存在し、人口分布の格差が大きく近い将来集落機能の維持が懸念されています。

しかし、上月地区は旧町時代の官公庁施設をはじめJA上月支店、小中学校、保育園、体育館、郵便局、JR上月駅、農産物直売所などが立地して利便性と多機能な施設を有して、今後は保育所、小学校の統合も協議される中、将来を担う子供たちのためにも、元気なまちであり続けていたい。

## わがまち上月（ワークショップからの報告）

上月地域まちづくり計画の中間報告の中でも多くの方々から、豊かな感性と自然が調和するふるさと上月、人情味があり、犯罪が少なく安心して暮らせるまち、空気や水がきれいなまち等の意見が多数寄せられました。

しかしながら、過疎化と少子高齢化、集落が消滅しそう、働く場所が無い、将来の後継者がいない等の意見も寄せられました。

また、地域づくり協議会にも、いろんな意見や提案を頂きました。

特に、子ども達が将来住んでくれる地域にしたい、との意見もあり、協議会に若いお母さんも参加してほしい、親から子へ、子から孫へと受け継がれる上月伝統文化の継承や、地域で親子とお年寄りの方との、三世代で参加できる世代間交流イベントの開催等を求める意見もありました。

上月地域づくり協議会が発足して8年がたち、その間地域づくりを取り巻く環境は、更なる地域間格差や近年協議されている「上月小学校区、上月保育園規模適正化協議会発足」等で大変な時期を迎えようとしています。

# 上月地域のまちづくりの推進と目標

## 1 まちづくりの組織と体制

各地域の自治会長を中心に、3部会1委員会の組織とする。  
新たに選出された「地域活動員」を中心に推薦員、学経員で構成。

## 2 助け合い、助け合える地域づくり

地域間での助け合いと、協働のイベントの開催。  
うちのお祭り一緒に楽しみませんか。

## 3 うちの子よその子他人の子、みんなみんな地域の子

地域の子育支援と交流事業の開催。オープンスクール等の参加。  
登下校の見守りとあいさつ運動。三世代交流事業の支援。

## 4 住んでみたい、住み続けたいまち

おばあちゃん今日も元気ですか？地域声掛け運動。  
田舎の「えんげ」は近所のおじいちゃんおばあちゃんの社交場。

## 5 美しいまち、美しい山川、心に残るふるさと

地域クリーン作戦の実施。  
ふるさとの自然を大切に、山や川を美しく。

## 6 ふるさとの伝統文化を大切に、子供や孫に伝えよう

親子で参加できるしめ縄づくり。  
皆田和紙文化の体験と継承。  
甲冑づくりに参加してみませんか。

## 7 健康で、みんなで元気に参加できるスポーツのまち

気軽に参加できるスポーツイベントの開催（グランドゴルフ他）。  
ウォーキングで健康と明日への活力（新春ウォーキング）。  
家族で参加「ラジオ体操会」の開催。

## 8 みんなで楽しめるイベントの開催と広報活動

みんなで参加できる「上月城ふるさと祭り」の開催。  
広報誌の発刊とイベント情報の発信

## 1 まちづくりの組織と体制

### 上月地域づくり協議会

会長( ) 副会長( ) 会計( )  
書記( ) 監事( )( )  
センター長( )

#### 自治会長会

会長( )  
副会長( )

#### 運営委員会

委員長( )  
副委員長( )

#### 地域活動部

部長

副部長

- 地域イベント活動の開催(世代間交流)
- 協働のまちづくり
- 地域防災の啓蒙

#### 健康福祉部

部長

副部長

- 健康づくりの啓蒙
- 福祉とふれあい活動
- 学童の見守り
- スポーツクラブ21  
上月と連携
- キッキンクラブ

#### まちづくり文化部

部長

副部長

- 歴史文化の継承
- 地域間交流
- 地域文化グループ
- 甲冑クラブ

#### 広報委員会

委員長

副委員長

- 広報活動
- 広報誌の発行
- 地域の紹介

### 構成委員の役割と活動

上月地域づくり協議会を構成する委員は、自治会長を中心に新たに「地域活動員」として参加いただく委員と各種団体代表、学識経験者、協議会推薦による委員、更に今後は、甲冑づくりに興味のある方、各種イベントで「おにぎり」「豚汁」「ポッコーン」作りなど協力頂くグループをそれぞれ「甲冑クラブ」「キッチンクラブ」として設立してゆきたい。

#### 地域活動部の構成員

自治会長、地域活動委員、及び自治会長会が推薦する方。

#### 健康福祉部の構成員

健康づくりと地域ふれあい事業に興味のある方。

キッチンクラブの参加者、スポーツクラブ21上月のメンバー。

#### まちづくり文化部の構成員

郷土文化に興味のある方、しめ縄づくりに興味のある方、甲冑クラブの参加者。  
伝統文化皆田和紙の継承と啓蒙。

#### 広報委員会の構成員

広報活動、広報誌の作製に興味のある方、ビデオ撮影に興味のある方。

## 2 助け合い、助け合える地域づくり（地域活動部）

- 今年より「地域自治包括交付金」が、地域づくり協議会に交付されています。
- 地域自治包括交付金の内「自治会まちづくり活動助成金相当分」は、「地域活を中心」に各自治会長、地域活動委員において協議して執行する。
- 各集落の「活動助成金相当分」は、基本額と世帯数により決定されています。

## 3 うちの子よその子他人の子、みんなみんな地域の子（共同取り組み事業）

- 地域安全子育て支援事業の取り組みと三世代交流事業の開催。
- 子供たちの登下校の見守りと、あいさつ声掛け運動の実施。
- オープンスクール等の学校行事に参加しましょう。
- 地域運動会の開催。

## 4 住んでみたい街、住み続けたいまち（共同取り組み事業）

- 高齢者に優しいふるさとづくりと声掛け運動。
- 地域の安全安心、地域防災力の向上。
- 気軽に参加できる田舎の「えんげ」は高齢者の社交場。
- 高齢者は地域の知恵袋です。

## 5 美しいまち、美しい山川、心に残るふるさと。（共同取り組み事業）

- 地域みんなで美しいふるさとづくりに心がけましょう。
- 地域クリーン作戦の取り組み。
- 地域に春を告げる花「こぶし咲く美しい山」を楽しんで。
- 今年も地域でホタルの育つ環境づくり。

## 6 ふるさとの伝統文化を大切に、子供や孫に伝えよう。（まちづくり文化部）

- 親子でしめ縄づくりや、甲冑づくりに参加。
- 皆田和紙の伝統文化の体験と承継。
- 上月太鼓、上月八幡神社獅子舞保存会、剣玉クラブとの交流。
- 地域の歴史と文化、歳時記の発掘。

## 7 健康で、みんなで元気に参加できるスポーツのまち（健康福祉部）

- 気軽に参加できるスポーツイベントの開催（グランドゴルフ大会）
- ウオーキング大会の開催（恒例新春事業の継続）
- 家族で参加「ラジオ体操会」の開催。
- キッチンクラブの設立と他協議会イベント参加。

## 8 みんなで楽しめるイベントの開催と広報活動（共同取り組み事業）

- みんなで参加して楽しもう「上月城ふるさと祭り」の開催。
- 地域の元気なお店今年も参加。
- 年3回広報紙発刊と各イベントの撮影と記録保存

## 上月地域づくり協議会平成 25 年度の主な活動報告

### ◆ みんなで楽しめる上月城ふるさと祭りの開催 ..... 実行委員会

上月地域づくり発足して 8 年、地域が一つになれるイベントとして上月城祭りを開催して参りましたが、今年より会場を上月文化会館に又名称も上月城ふるさと祭りに改め多くの方々の協力を頂き開催いたしました。

当日は小雨の降る中、地域のお店も参加いただき又、会場では有志が作成した 7 領の手作り甲冑も登場して祭りを盛り上げました。

又、当日出演頂いた、上月獅子舞保存会、上月太鼓を始め関係者にも改めてお礼申し上げます。



### ◆ みんなみんな地域の子 ..... 健康福祉部・まちづくり文化部

次に、地域の子育て支援交流事業として、上月小学校オープンスクールに合わせてクリスマスリースづくりや、皆田和紙保存会の協力による行燈づくり、保育所の夕涼み会、ママプラザのポップコーン、綿菓子、焼き芋づくり又、学期末の登校時の交通安全立ち番と声掛け運動等を実施して、地域の子育てを応援して参りました。

又、昨年 7 月より小学校 P T A 、子供会の活動費の応援にアルミ缶専用の収集を行っています。



## ◆ 健康でみんなで参加できるスポーツイベントの開催 …… 健康福祉部

今年も、地域のスポーツ団体と協賛して季節ごとにみんなで参加できるスポーツ大会を開催して参りました。

特に、スポーツクラブ 21 上月と共同開催の新春ウォーキング、グラントゴルフ大会は旧上月町を始めとして多くの方々の参加を見ております。



## ◆ 世代間交流事業 …… 健康福祉部・まちづくり文化部

少子高齢化と核家族が増える中、世帯間交流事業として夏休みの最初の土曜日、朝の NHK のラジオ体操番組に合わせて、三世代交流のラジオ体操会や、年末には同じく三世代交流クリスマス会に参加をさせて頂きました。



## ◆ 広報活動と新入生の紹介 …… 広報委員会

地域づくり協議会の活動情報誌「かわら版こうづき」の発刊。  
小学校新入生の紹介。



### 大日山村

佐用川支流大日山川源流の山間地。地名は日当たりのよい集落で、下流の小日山より戸数が多いことから大日山と名付けられたようです。

江戸時代は、もと宇喜多家の所領、慶長5年姫路藩その後平福藩、山崎藩、元禄のころは三月藩で明治を迎へ、氏神は八幡神社で当時から寺院は無かったらしい。

当時の村石高は天保郷帳によると、132石内訳は、田90石、畠42石で最高は172石という記録もある。

慶応2年西新宿村と共に百姓一揆を起し、近郷の参加者と共に久崎村の商家に押しかけたという記録も残っている。

明治22年久崎村の大字となり、明治24年の戸数62戸、人口男性156人女性158人で総人口は314人、大正10年戸数70戸で人口379人という記録もある。

大正12年電気架設、地域産業は製炭及び山林業に男性が従事し、婦女子は心切（すべつみ）に励み、地域の副業は畜産と養蚕業を営み、本業の稻作林業をしのいでいた。

その後、昭和35年57戸269人、55年には35戸75人現在は14戸24人と激減しているが、集落の小高い山には、春を告げる白い「こぶしの花」が咲き、毎年愛好者が訪れている。

### 小日山村

佐用川の支流大日山川流域で、大日山村より戸数が少ないので小日山村と名付けられたとか、宇宮山の平治畠は、平治年間の開拓で兵衛という人が居住したという（西庄村誌）村の経緯は、江戸時代当初は、宇喜多家所領で姫路藩、平福藩、山崎藩、三日月藩を経て明治を迎える。

村高は天保郷帳によると、62石内訳は田31石余り畠30石余りの記録もあり、記録によると、寛文10年の池田藩検地の時に、西大畠村から分村との記録もある。

又、平成21年の大水害で地域は甚大な被害を受けるが、過去に寛政12年の大飢饉や、天保12年の大洪水と幾多の困難な時代を乗りえた先人の功績もある。

明治24年の記録によると、戸数30戸人口は男性86人女性61人で、大正10年には戸数33戸、人口190人との記録もある。

地域産業は、明治30年頃より稻作のほかに畜産業、養蚕業を副業として盛んに行われ、明治38年の記録には養蚕業20戸との記録があり、明治36年のころから紙漉きを始めた記録も残っており、大正10年のころには木炭1万表、特にこんにゃく玉生産は、西庄村2位だった記録も残っている。

大正12年電気架設、昭和35年27世帯145人との記録もあるが平成24年現在では20世帯42人と他の集落同様に少子高齢化を迎えている。

## 西大畠村

江戸期から明治 22 年の村名で、元禄の頃の天保郷帳では大畠村とも記載されているが当時の村高は 371 石余りで、田 208 石、畠 163 石。

寛文 10 年の池田検地の時に、目高、力万、寄延、小日山の 4ヶ村が分かれたとの記録があり、氏神は大避神社で天正 2 年坂越村大避神社から分霊を勧請し、明治 40 年村内 12 社を合祀した。

又、判官在所には、昔判官太郎助安が居住したと言われている、元禄年間の頃より副業に紙漉きを行い、大畠紙として三日月藩にも納めていた記録もある。

文化 2 年庄屋吉田源三郎は奉行に申し出て石灰の株を託され、年額 30 石を上納し、石灰 24,000 表を産出した記録もある。

明治 24 年の戸数は 125 戸、男子 351 人女性 323 人、大正末期には 12 戸の農家が大畠紙を生産して年間 2,000 束の記録もみられるが、石灰の生産と共に現在は残っていない。

大正 12 年電気架設、昭和 11 年姫新線開通、昭和 35 年 116 世帯 526 人、昭和 55 年 101 世帯 326 人、現在は 85 世帯 210 人と他の集落同様に少子高齢化が進んでいる。

## 須安村

大日山川沿いの集落と、須安川沿いの集落で沼や、洲に、団まれて集落で須安（洲葦）と名づけられたらしい。

織田信長の時代に、杉坂峠を越す美作街道（出雲街道）が万能峠を越す近道が開通して、近隣の集落と共に街道沿いが賑わってきた。

元は、宇喜多領で姫路藩、平福藩、山崎藩、元禄年間の「元禄郷帳」によりと、この頃宇根村を分村している記録もあり、三日月藩で明治を迎える。

村高は、「正保郷帳」によると 556 石余りうち田 363 石、畠 193 石で宇根村を分村前の石高で、分村後の「天保郷帳」によると 265 石とある。

氏神の妙見宮は、明治 40 年上月八幡神社に合祀、字赤明寺に赤松という医師が来て寺屋敷考証したという（西庄村誌による）

大正 12 年電燈架設、昭和 11 年姫新線が村南部を通過、昭和 35 年の人口は、45 世帯 241 人、昭和 55 年 44 世帯 172 人、現在は 42 世帯 118 人で他の集落同様に、少子高齢化が進んでいる。

## 宇根村

大日山川支流須安川の上流域で、耕地が少なく高いところ（畝）から低地に向かって開拓したことでの由来がある。

元禄の頃、須安村から分村、宝暦 11 年の須安検地によると、宇根村への入作は田 14 人、畠 6 人で 1 町 9 反あまりの記録もある。

耕地が少なく明治 20 年副業として、養蚕を始め大正 11 年の養蚕戸数は 28 戸、また冬季の木炭の生産は、2000 倉の記録もある。

集落の氏神は清地神社で、天正6年広峰神社から勧請、明治21年社殿改築、同40年村内8社を合祀。

当村は、元は山脇村慈山寺の檀家であったが、明治25年美作国蓮花寺に移ったとの記録も残っている。

明治24年の戸数40戸、人口は男子119人、女子106人、大正10年の戸数48戸人口253人、昭和35年45世帯245人、昭和55年31世帯111人、現在は21世帯51人の集落となっている。

## 力万村

大日山川沿いに開けた集落で、地名の由来は、利器（兵器、武器）を作ったことによる集落で、力万村と名付けられた。

集落は、近隣の集落同様もとは、宇喜多藩、姫路藩、平福藩、山崎藩、寛文10年の池田検地で西大畠村より分村し、元禄に入り三日月藩となり、明治を迎える。

明治以降は、西庄村の役場を設置、明治24年西庄尋常小学校を、更に農協、駐在所と村の中心地として栄えた。

昭和11年村の南部を姫新線が開通して上上月に上月駅が出来戦後を迎え、昭和30年上月町の大字なり、その後、役場、小学校、農協、駐在所も上上月に移転して、旧西庄小学校跡地の西の庄施設と、前の旧国道には今も残る西庄村の道路元標が、当時の繁栄と面影を残している。

昭和35年41世帯172人、昭和55年50世帯179人、現在は57世帯192人と、世帯数、人口の増加している数少ない集落である。

## 金屋村

大日山川支流、幕山川の下流域に開けた集落で、地名の由来は、古代より砂鉄の製鉄が盛んであった事より金屋と名付けられた。

昭和58年の圃場整備事業の事前調査の発掘で多くの鉄滓が発見されて、地名由来の「金屋」が証明された。

氏神は吾勝神社で、他に愛宕神社、観音堂があり、通称「行者山」と呼ばれる修験場では毎年5月8日に護摩焚き供養もあり、寺院は無いが真言宗御室派に属した寺跡に宝明院が残っており、集落内には、広岡氏の居城があり、広岡郷として栄えた中心地が金屋であったらしい。

昭和30年までは、幕山村に属しており幕山村と西庄村の合併により上月町となり現在は上月校区の自治会として共に活動している。

昭和35年75世帯464人、昭和55年75世帯302人、現在は78世帯243人で世帯数の大きな変化はないが、人口は減少しつつある。

## 上月村

江戸期から明治 22 年の村名で、もと宇喜多領、慶長 5 年姫路藩、平福藩、山崎藩、慶安 2 年幕府領、元禄 10 年からは三日月藩で明治を迎える。

又、村の南西に位置する荒神山に築かれた上月城は、幾多の戦いの歴史と、悲劇を繰り返し、天正 6 年尼子氏の自刃落城後は、歴史の舞台から消え再びよみがえっていない。

村高は、「正保郷帳」によると 271 石余りで、田 162 石、畠 108 石余り、氏神は八幡宮で、明治 40 年近隣の村々の八幡宮を合祀して上月八幡宮とする。

元和年間から当地と赤穂の間に高瀬舟を運行し米、薪炭、木材、を赤穂に運び帰りに塩や海産物を積んで帰る高瀬舟の船着き場もあったそうで、明治 24 年の記録では日本型船舶 6 艘（高瀬舟）もみられる。（夏季は就航しない）

明治 24 年戸数 89 戸、人口は男子 245 人、女子 201 人、大正 10 年の戸数 143 戸で人口 731 人の記録も残っている。

産業は、他の村同様に明治 30 年頃より畜産、養蚕が農業経営の主流であったが、大正 12 年電気架設、昭和 11 年姫新線の開通と上月駅の開設、国道の改修により人口も増加して、商店街が軒を連ねるようになり昭和 30 年西庄村と幕山村の合併により、上月町の中心地として、町役場、農協、郵便局、小学校、中学校が集まり、昭和 35 年世帯数 227 戸、人口 1,066 人、昭和 55 年世帯数 313 戸、人口 1,107 人、現在は 3 自治会で 274 戸、人口 810 人で上月地区の中心地である。

## 仁位村

佐用川に沿った村で仁位山の西の面した「新しい村」として仁位村となったようで、仁位山は羽柴秀吉が上月城攻めで前衛を置いたところで壕跡も残っています。

江戸期から宇喜多藩、慶長 5 年姫路藩、平福藩、山崎藩、正保 2 年赤穂藩の記録もあるあり、元禄 14 年幕府領と記載があり、これは赤穂藩の江戸城事件による幕府領としての記載であり、享保元年からは安志藩と他の村と少し異なって明治を迎える。

村高は、正保年間の「正保郷帳」によると 273 石余りで内訳は田 213 石、畠 59 石の記録もある。

先の、平成 21 年の水害の記録も新しいが、過去の記録によれば江戸時代にも天保 2 年、嘉永元年秋の洪水で新田 6 反の被害の記録もあり、明治に入っても 2 度の水害で堤防決壊、井堰決壊の被害を受けている。

明治 24 年の戸数 40 戸人口 190 人、大正 10 年の戸数 28 戸人口 197 人、昭和 35 年 32 戸 166 人、現在は 50 戸 102 人で人口は減少している。

又、鎌倉期に見える地名で「播磨国佐用庄内東庄、西庄、本位田、新位田、豊福村、江川村、赤松村、千種村、土万村」とあり、新位田が仁位村と考えられ佐用川に沿って早くから開けた村であったらしい。

## 寄延村

---

谷筋に寄り合って出来た集落で、寄延村の由来があり村の南に位置する上月城は、幾多の戦いの末、天正 6 年の尼子氏滅亡から歴史の表舞台に登場したことは無い。

寛文 10 年西大畠村から分村して、氏神様は八幡神社で明治 40 年に上月八幡神社に合祀された。

江戸期から宇喜多藩、慶長に入り姫路藩、平福藩、山崎藩、元禄 10 年からは三日月藩を経て明治を迎える。

村高は、「天保郷帳」によると 65 石で田 42 石、畠 22 石、寛文 10 年の池田検地で西大畠村から分村した記録がある。

産業は、農業を主として副業に、畜産、養蚕、製炭業のかたわら、婦女子は冬季にわら心切に従事して生計を維持し、昭和 25 年ころまで続いた記録も残っている。

昭和 12 年電気架設、人口は昭和 35 年 11 世帯 57 人、昭和 55 年 7 世帯 22 人、現在は 3 世帯 4 人と大きく減少し過疎化が進んでいる。

## 目高村

---

西播磨山地の西部で、地名の由来は高いところの意味による、昔西大畠から移り住んで集落が出来たらしい。

特に、天正年間羽柴秀吉が上月城を攻めたとき、愛宕山周辺に大成陣屋があり、上月城の水源地、烽火場や枒形と、これらを守る大築地が残る。

江戸期より宇喜多藩、慶長 5 年姫路藩、平福藩、山崎藩、元禄 10 年からは三日月藩を経て明治を迎える。

寛文 10 年池田検地の頃に西大畠村より分村するが、庄屋は秋里村の庄屋と兼務となっていたらしい。

村高は「天保郷帳」によると 70 石余りでうち田 33 石、畠 36 石と山地であり畠作が多くみられる。

特に、畠作のコンニャクは京阪神では有名で大正 10 年には 130 駄出荷、1 駄 34 円の高値で売却された記録もある。

山地で道路がなく牛馬の背、人の肩で荷物を運搬していたが、大正 8 年目高からより寄延を経て上月に至る幅 6 尺、延長 620 間の道を開削、記念に植えたさくら並木が今も歴史を語っている。(この桜と山里の集落が日本の村 100 選に選ばれた。)

昭和 12 年電気架設、昭和 35 年 20 世帯 145 人、昭和 55 年 12 世帯 20 人、現在は 6 世帯 6 人と過疎化が進んでいる。

## 早瀬村

早瀬村の由来は古く、奈良から平安期に見える郷名で播磨の国佐用郡八郷の1つで、「風土記」に讃容郡6里1つとして、「速湍里」と見え、地名は川の瀬が速いに由来する。

速湍社の神は広比売命で、散用都比命の弟であるといわれ又、白山満願寺は天正5年の上月城攻めの兵火で焼失し、塔の基礎石が残り古墳などの遺跡もあり、国道横の一本松は一里塚で、現在は四代目の松が植えられている。(現在は、白山神社「早瀬神社」)

江戸期より宇喜多藩、慶長5年姫路藩、平福藩、山崎藩、正保2年赤穂藩、元禄14年幕府領、安志藩を経て明治を迎える。

村高は、「正保郷帳」によると255石余りで田183石、畠71石と近隣の村々では特に多い石高である。(最高は281石という記録もある。)

明治24年の戸数は55戸で男子167人、女子128人、大正10年の戸数65戸人口は340人と村高に合わせて戸数、人口も多く、昭和35年66戸、324人、昭和55年62戸、219人、現在は56世帯169人と減少している。

この資料は、昭和63年発行の角川書店の「角川日本地名大辞典」を参考に作製したもので、一部地元の話として伝えられている逸話も参考にしています。

200年前の集落の人口や生産高を現在と重ね合わせて、皆様の集落をもう一度見つめなおしていただければ幸いです。



上月歴史資料館と  
皆田和紙 紙すき文化伝承館



## 編集後記

平成 18 年に設立された「上月地域づくり協議会」も今後の活動方針とまちづくり計画を策定すべく、平成 20 年頃から作業を進めて参りましたが、翌年平成 21 年の水害で資料の一部流失等の被害を受け、改めて平成 23 年度から再度取りまとめを進めて参りました。

幾度かのワークショップを行い、皆さんの意見を聞きながら「上月地域のまちづくり計画（案）」取りまとめて参りました。

しかしながら、他の地区と同様に上月地区も過疎化と少子高齢化の状況は年々進んでおります。

特に、過疎と高齢化の進行は、町内に置いては自治会活動が行われなくなった集落や、数世帯構成人員 10 名以下の集落も発生して自治会の再編も行われています。

歯止めのきかない集落の高齢化と人口減少、子供のいない集落等、ワークショップの度に聞かされる意見がありました。

平成 25 年度より採用された、「地域包括交付金制度」で地域間相互の連携も視野に入れた事業の実施のため「地域活動部」を新たに創設して、助け合える地域間の活動に取り組んできましたが、まだまだ道半ばといった状況です。

ここに、近年の「上月地域づくり協議会」活動の一環と、又今後の活動方針を取りまとめた、「まちづくりの歩み」を編集いたしました。

今後は、更に進んで行く過疎化と高齢化、小学校、保育園の規模適正化の中での地域間格差に、少しでも助け合える地域づくりを進めて行きたい、編集者全員が切実に感じた意見です。

平成 26 年 3 月

ナルト列車を見送るしかのすけ君



上月城ふるさと祭で活躍するしかのすけ君

ふるさとの伝統文化を大切に  
美しいまち、美しい山川  
住み続けたいまち、助け合える地域づくり

上月地域づくり協議会